

全国45経済同友会共催 第21回 全国経済同友会セミナー  
**「不易流行——伝統は革新の連続なり」**  
 ～いま、日本に求められる哲学と行動指針～

**全** 国45経済同友会共催による第21回全国経済同友会セミナーが4月10、11日、右記のプログラムで開催された。今回は京都経済同友会創立60周年記念事業の一環として、初めての京都市開催となった。

「不易流行—伝統は革新の連続なり～いま、日本に求められる哲学と行動指針」を総合テーマとし、4つの分科会を中心に、企業経営や日本の国際競争力などについて議論を深めた。開会挨拶を行った有富慶二氏は、「あらゆる分野で閉塞感が生じている中、経済同友会の役割を再認識し、既成概念にとらわれない議論を展開してほしい」などと述べた。

なお、セミナーの参加者は約1,300名に上り、2年連続で過去最高を記録した。



堀場雅夫氏の基調講演の様式。

●プログラム

第1日

- ①開場・受付
- ②オープニング／琵琶による弾き語り 田中旭泉氏（筑前琵琶奏者）
- ③開会挨拶 有富慶二氏（全国経済同友会セミナー企画委員会 委員長／経済同友会 副代表幹事／ヤマトホールディングス 会長）
- ④歓迎挨拶 渡部隆夫氏（京都経済同友会 代表幹事／ワタベウエディング 社長）
- ⑤基調講演／「自今生涯」 堀場雅夫氏（堀場製作所 最高顧問）
- ⑥分科会

第2日

- ①分科会報告 各分科会議長
- ②総括挨拶 桜井正光氏（経済同友会 代表幹事／リコー 会長執行役員）
- ③閉会／次期開催地代表幹事挨拶 坂本眞一氏（北海道経済同友会 代表幹事／北海道旅客鉄道 相談役）  
／閉会挨拶 渡部隆夫氏
- ④特別講演（対談）／「源氏物語の魅力」 田辺聖子氏（作家）、河内厚郎氏（河内厚郎事務所 所長）

第1分科会

日本のソフトパワーを考える

議長

関西経済同友会 代表幹事／関西電力 副社長  
 齊藤 紀彦

パネリスト

京都大学公共政策大学院 教授（法学研究科 教授併任）  
 中西 寛

アイ・ディ・ケイ・デザイン研究所 代表取締役  
 喜多 俊之

関西国際空港 社長

村山 敦

- 村山氏（日本のソフトパワーの強みと弱み） 日本の風土が育んだ文化には比較優位がある。ものづくりの力は、この文化からきている。日本企業は個々の製品づくりには強いが、グローバル・スタンダード化、ブランディングができていない。
- 喜多氏（「不易流行」とは） 日本の伝統に対しては、世界にファンが多い。積み上げてきたものづくりの魂はしっかり残すべきだ。一方、暮らしが伝統を受け継ぐ土壌になる。良いものを判断する力は、豊かな暮らしなくして育たない。
- 中西氏（地域のソフトパワー戦略） 京都は、日本の中では比較的プロデュース力がある。ただ、国際的に見ると十分とは言いにくく、潜在力をもっと活かせるはずだ。世界的な視野から見ても価値のあるものを活かしていくことが大事だ。
- 齊藤氏（議長まとめ） 自らの魅力を高めて「選ばれる国」になることが発展の鍵だ。息の長い取り組みが必要である。

## 第2分科会

## アジアの中の日本を考える

## 議長

マネジメント・ウィズダム・パートナーズ・ジャパン 社長  
半田 純一

## パネリスト

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 客員教授  
木下 俊彦

安川電機 社長  
利島 康司

中部経済同友会 代表幹事／豊田通商 会長  
古川 晶章

- 木下氏（日本の立ち位置） 日本とアジアは、好き嫌いの問題は別にして、分かちがたい関係にあり相手を深く知ることが重要だ。特に、中国の発展による風圧は日本に大きな影響を与える。今後、中国のバブルをどう見るかが課題となる。
- 古川氏（日本の求心力） 日本は、空気清浄、海水淡水化、太陽光・風力・地熱発電、炭素繊維、省エネなどの優れた技術を持っている。さらなる進歩には産学官連携がとても重要だ。そして、その情報を発信し、海外展開することで日本の評価は変わるだろう。
- 利島氏（課題は何か） 世界の中で日本の求心力が低下していることを、企業人でも認識している人が出てきた。大事なのは共通認識を持つことだ。「企業が何をやるべきか」という理念や基準をしっかり持って、高い目標を掲げるべきだ。
- 半田氏（議長まとめ） 国の改革を待っていたのでは手遅れだ。「グローバル日本人」をつくるのは企業や地域しかない。

## 第3分科会

## 「クニ（ふるさと）と国の活性化」を考える

## 議長

東京大学大学院経済学研究科 教授  
神野 直彦

## パネリスト

仙台市 市長  
梅原 克彦

北海道経済同友会 会員／北海道旅客鉄道 副社長  
柿沼 博彦

仙台経済同友会 副代表幹事／NEC トーキョー 相談役  
羽田 祐一

- 羽田氏（地域経済の現状） 自動車、半導体といった文明産業は、最適地を求めて工場がどこへでも進出する。心の豊かさを追求する文化産業は、地域に根付いて幸福水準を追求していく。これからは文化産業をもっと伸ばしていくべきだ。
- 柿沼氏（課題と対策） 地域を活性化させるポイントは、個性や多様性という「質」にある。「量」は飽和するが、「質」は連続するイノベーションによって成熟する。質を磨きあげるためのキーワードは、感性、個性、自由、競争と協調だ。
- 梅原氏（地方分権） 地方分権を考える上では、国対地方、大都市対地方という二項対立の図式ではなく、国がどこまでやるべきか、基礎自治体にどこまで委ねるかを考えるべきだ。そして、全国的な議論にしていかなければならない。
- 神野氏（議長まとめ） 地域の生活様式や文化を残しつつ、地域社会が育んできた個性を発展させる経済構造を構築する必要がある。

## 第4分科会

「いま、イノベーションの時代」  
—企業経営と地域社会のあり方を考える

## 議長

ジャパンライフデザインシステムズ 社長  
谷口 正和

## パネリスト

京都経済同友会 特別幹事／堀場製作所 社長  
堀場 厚

マツダ 専務執行役員  
金井 誠太

経済同友会 代表幹事／リコー 会長執行役員  
桜井 正光

- 堀場氏（グローバルマネジメント） 海外オペレーションの主体となる日本人マネージャーが現地従業員をどう指導・育成していくかが課題だ。文化的な理解が必要となるが、自国の文化を理解しなければ外国を理解することはできない。
- 桜井氏（企業経営の革新） イノベーションを考える上で、「不易流行」は示唆に富んでいる。効率性・生産性に代表される日本の強みは変えなくてよいものであり、一方、導入すべきは欧米の良さで価値創造の領域などである。
- 金井氏（企業内の人材育成について） 教育で必ず伸びるというものではない。自ら育つ社員もいれば、ジョブローテーションで予想外の能力を示す場合もある。若い人には柔軟性があるということを感じなければいけない。
- 谷口氏（議長まとめ） イノベーションの軸足は人材だ。経営とは、新しい時代の構想を描き、夢を実現することだ。